

# がんの薬を始めるとき

## ～薬物療法大切なこと～





がんと診断され、  
治療が始まります。

## 治療の目的は、 “自分らしい生き方”を支えること。

治療によって、がんを治したり、がんの増殖を遅らせて生命を保ったり、今ある症状を軽減させたりします。いろいろな治療法がありますが、担当医をはじめ、様々な専門分野の医師、看護師などが相談して、あなたにとって最善と思われる治療法を提案してくれます。ご自身の生活や生き方に合わせて、治療を選びましょう。



先が見えなくて  
不安になります。

## 治療の流れを確認しましょう。

病気や治療について担当医に訊ねるのを躊躇したり、  
知るのが怖くて質問できないことがあるかもしれません。  
でも、知らないことで余計に不安が増すこともあります。

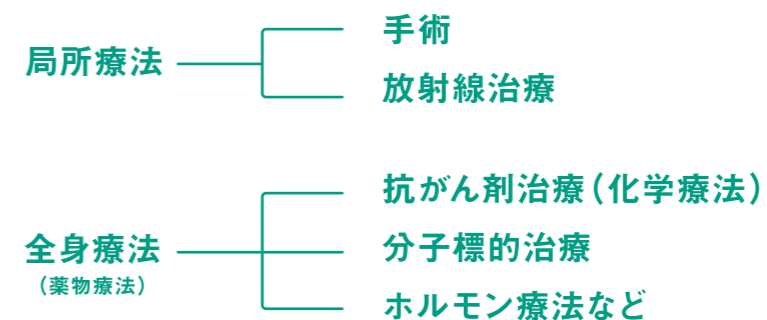
知りたいことや、疑問に思ったことは  
担当医に確認・相談しましょう。

積極的に治療方針の話し合いに参加し、治療の目的を確認し、  
いま自分がどこにいるのかを理解して、  
納得できる治療計画を立てましょう。

薬物療法ってなに？

## がんの治療法には、 局所療法と全身療法（薬物療法）があります。

がんの治療法は大きく分けてふたつあります。



体の一部分にあるがんを取り除いたり、たたいたりする“局所療法”。

薬を使って全身に広がっている可能性のあるがんを消したり、抑えたりする

“全身療法”。全身療法は、薬物療法とも言われ、注射や内服等の方法で行われます。



薬の副作用は  
つらいというけど・・・。

様々な副作用が起こりますが、  
その対処方法は進歩しています。

薬物療法の副作用には以下のようなものがあります。

吐き気 脱毛 発熱 だるさ など

薬によって、さまざまな症状が起こりえます。

おかしいなと思う症状が現れた時には、

すぐに担当医や看護師、薬剤師に相談してください。

副作用の程度は人によって異なりますが、

自分の使う薬でどんな副作用が起こりうるのかを

あらかじめ知っておくことが大切です。



他の薬も  
使ってるんだけど・・・。


## 薬の治療を始める前に 必ず担当医や看護師、 薬剤師に相談しましょう。

色々な薬と一緒に飲んだり、点滴したりすると、  
薬によっては必要以上に効果が強く出てしまったり、  
反対に十分な効果が得られなかったりすることがあります。  
服用している薬や、新たに開始する薬は、  
担当医や看護師、薬剤師に伝えましょう。  
代替療法や民間療法を使っている場合や、  
使おうと考えている場合も、必ず相談しましょう。

飲み忘れたら  
どうしよう・・・。

## 飲み忘れた時の対処法について あらかじめ確認しておきましょう。

飲み忘れは誰にでもあることです。  
飲み忘れたときにあわてないために、  
「気づいたときにすぐ服用する」、または  
「飲み忘れた分をとばして次の服用時から再開する」などの  
対処法をあらかじめ医療者に確認しておきましょう。  
間違って多く飲んでしまった場合には、  
すぐに担当医や看護師、薬剤師に相談してください。



薬はいつまで  
続けられればいいの？

## 自分の判断で 止めないでください。

長く薬を飲んでいたり、点滴を続けたりしていると、副作用がつかなくてイヤになったり、止めたいと思ったりすることがあるかもしれません。薬物療法では、効果と副作用を見ながら、薬の量を調整したり、薬を変更したりします。もし止めたいと思ったら、ご自身の体調やお気持ちを担当医や看護師、薬剤師にくわしく伝えて相談しましょう。





緩和ケアってなに？

緩和ケアとは、体の痛みや  
心のつらさ、薬の治療による  
副作用をやわらげること。

がんという病気で生まれる様々な症状や体の痛み、  
心のつらさをやわらげるのが緩和ケア。

がんと診断されたときから、

いつでも受けることができる治療です。

つらいと思ったら、担当医や看護師に相談しましょう。



A close-up photograph of a person's hands using a calculator on a wooden desk. The person is wearing a light-colored, long-sleeved shirt. The background is slightly blurred, showing a white wall and a desk lamp. The overall scene suggests a focus on financial calculations or budgeting.

お金が払えるか心配。

## 色々な制度を利用しましょう。

治療費の負担や支払い方法が、生活にどんな影響を与えるかと気にしている方もいらっしゃると思います。支払いに関しては、高額療養費制度など、負担を軽減できる公的な制度がありますから、病院の相談窓口や医療社会福祉士（ソーシャルワーカー）に相談しましょう。自分の通っている病院やクリニックに相談窓口がない場合には、近くのがん診療連携拠点病院の相談支援センターにも相談できます。民間の保険に入っていれば、特定の治療の費用が保険で保障されるかどうか問い合わせてみましょう。上手にいろいろな制度を利用して、少ない負担で治療を続けられるようにしましょう。



ふと心細くなること  
があります。

## 周りのみんなが サポートしています。

治療を続けていると、  
どうしようもない孤独感を抱いてしまうかもしれません。  
でも、あなたは、一人きりで  
病気と闘っているわけではありません。  
家族や友人、担当医、看護師、  
周りにいる人たちがあなたをサポートしています。



## 薬物療法を始められる方へ

患者さんにとって、がんの治療は、  
身体的にも精神的にも、大きな負担になります。  
体がつらいとき、精神的につらいときには、  
無理をせずに、お休みしてのんびり過ごしましょう。  
いろいろと考えて、不安で心が苦しくなったときには、  
一人で抱え込まずに周りの人に相談するか、  
自分の気持ちを手帳やノートに書いてみましょう。  
気持ちがゆらいでしまう自分を責めないでください。  
焦らず、ゆっくりと治療していきましょう。

## 監修者のご紹介



松島英介 先生

東京医科歯科大学大学院  
医歯学総合研究科  
心療・緩和医療学分野

がんの疑いがあると言われたその時から多くの患者さんが不安になり、その後眠れなかったり、うつになったりします。ひとりであれこれ考えるのではなく、是非ご家族や医療スタッフに声をかけて下さい。周りのサポートがあることを忘れないで下さい。私たちサイコオンコロジスト（精神腫瘍医）も皆様の気持ちをサポートします。



高野利実 先生

がん研有明病院  
乳腺内科

がんの治療には、「いいこと」（効果）と「よくないこと」（副作用）があります。「よくないこと」があっても、それを上回る「いいこと」が期待できれば、治療を行います。治療目標をきちんと決めた上で、担当医などとじっくり話し合い、「いいこと」と「よくないこと」のバランスを慎重に判断することが重要です。話し合いの際には、「治療に何を求めるのか」「どう生きていきたいのか」という価値観を語ってほしいと思います。

ノバルティス ファーマ株式会社



ONC00029GG0006

2020年11月作成